

(令和3年6月試験研究業務月報)

試験研究課題：ブランド京野菜生産拡大のための機械化・省力体系の構築

(3)機械化による丹波黒ダイズエダマメの省力収穫体系の構築

(令和3年度プロジェクト課題)

研 究

## 省力収穫体系の構築を目指し、エダマメを植え付けました

丹波黒ダイズから育成した黒大豆エダマメ『紫ずきん』及び『京 夏ずきん』の需要は、このコロナ禍においても他の野菜類に比べ堅調で、生産拡大が期待される品目となっています。

当センターでは、黒大豆エダマメを2ha作付けする大規模経営体の育成支援のため、収穫作業を省力化できる収穫・脱莢<sup>さや</sup>一体機に適応する草姿改善と機械の改良を目指した研究を今年度から始めました。6月4日に『京 夏ずきん』の移植を行い、その後、『紫ずきん』を順次、植えています。

6月17日と24日には、本研究の協力企業であるヤンマーアグリジャパン(株)の移植機を試用した機械移植作業も行いました。今後、生育と収穫の調査結果に基づき、収穫機への適応技術を確立するとともに、収穫機の改良につながる提案を行い、エダマメの機械化栽培を実現します。



機械移植作業（6月17日実施）



移植後7日目の『紫ずきん』（左うね）と  
同20日目の『京 夏ずきん』（右うね）

(令和3年6月試験研究業務月報)

試験研究課題名： 伝統野菜の保存と展示及び優良種苗の確保

研 究

## 伝統野菜の維持・保存のため種子を更新

当センターでは、伝統野菜の原種を維持・保存するため、定期的に栽培し、採取を行って発芽の良好な新しい種子に更新しています。

このうち、アブラナ科根菜類の伝統野菜4品目（大内カブ<sup>おおうち</sup>、スグキナ、佐波賀<sup>さばか</sup>ダイコン、辛味ダイコン）を昨年9月にガラス温室内に播種<sup>はしゅ</sup>し、他の品目との花粉による交雑を防ぐため、細かいネットで囲い栽培してきました。

これらは順調に生育し、3月下旬に開花を始め、6月に種子が充実したことを確認し、鞘<sup>きや</sup>を収穫して種子を取り出しました。

今後、今回取り出した種子と保存していた種子を用いて同時に栽培し、形状が維持されていることを確認した後、新しい種子に更新して保存します。



ネットで囲い栽培



手作業で鞘<sup>きや</sup>から種子を取り出す



取り出した「大内カブ」の種子<sup>おおうち</sup>

農 林 セ ン タ ー

(令和3年6月試験研究業務月報)

試験研究課題：黒ダイズへの「まめリッチ」施用による効果安定技術の確立

研 究

## **黒ダイズの病害抑制と増収効果に関する微生物資材の試験を開始**

京都府特産の黒ダイズでは、収穫時期が近づくと土壌性病害の一つである黒根腐病が発生し、株の枯死や収量低下などの被害が生じています。本病害に対しては有効な防除薬剤がないため、当センターでは平成30年度より、生産者、大学、資材メーカー、普及センターなどと共同で本病の発生を抑制し、且つ増収効果が期待される微生物資材を用いた栽培技術の確立に取り組んでいます。

6月18日には、現地ほ場において、黒ダイズの定植および微生物資材の処理作業を行いました。7月からは生育調査及び発病調査、11月には収量調査を行い、新たな栽培体系の確立を目指します。



定植作業



定植後6日目の試験ほ場  
(南丹市日吉町)



(令和3年6月試験研究業務月報)

試験研究課題：酒造適性と収量性を向上させた新しい酒造好適米の育成と安定生産技術の  
確立

研 究

## 酒米品種登録出願に向け、試験栽培を開始

京都府独自の酒米品種「祝」は、府内の酒造メーカーで広く利用されていますが、生産現場では低収となりやすいこと等が、酒造現場では、精米や吸水の際に米粒が割れやすいこと等が問題となっています。当センターでは、「祝」の品種改良に取り組んでおり、品種候補1系統を選抜しました。

6月3日に所内水田で、「品種候補系統」及び「祝」の田植えを行いました。田植え後25日現在、「品種候補系統」の茎数は「祝」と同等ですが、草丈は10cm程度短く、本系統の特性がすでに現れています。

今後、品種登録出願に向けた特性把握、収量調査、試験醸造の結果をまとめ、本年度末に品種登録出願を行う予定です。



田植えの様子（6月3日に実施）



「品種候補系統」

「祝」

田植え後25日目の酒米「品種候補系統」（左）と「祝」

「品種候補系統」の茎数は14.5本、草丈は33.7cm

「祝」の茎数は14.8本、草丈は43.6cm

## けた 桁びき網による底生生物の資源調査

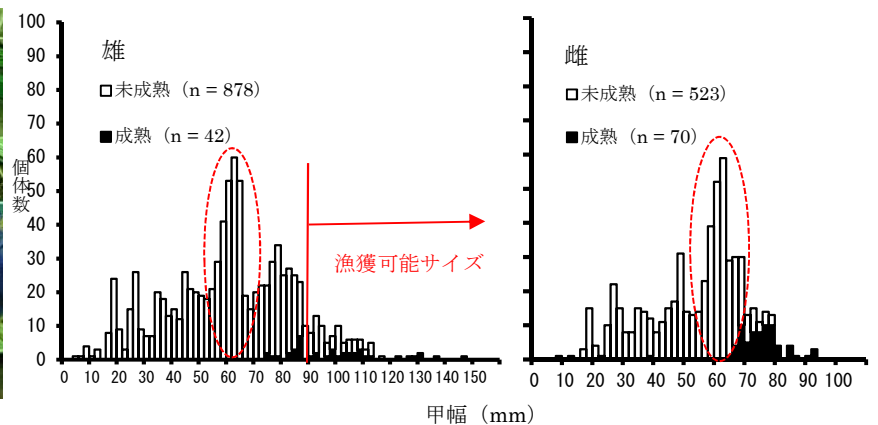
当センターでは、京都府の漁業上重要なズワイガニやアカガレイなどの底生生物の資源量を把握するため、毎年5～6月に海洋調査船「平安丸」のけた桁びき網\*操業による調査を実施しています。今年度は、5月18日～6月15日の期間中に京都府沖合の水深120～320mの海域で25回操業し、ズワイガニでは、雄920尾、雌593尾が採集されました。特に、甲幅60mm前後の未成熟個体が雌雄ともに多く、順調に成長すれば数年後に漁獲の増加が期待されます。

今後、このような底生生物の資源状況を国や他県の研究機関と協力して広域的に分析し、資源を適切に管理して有効活用できるよう府内の漁業者へ情報提供していきます。

※ けた桁びき網：鉄枠に漁網を取り付けて海底付近を曳くことで生物を採集する漁具



採集物を種ごとに仕分けして計測



ズワイガニの甲幅組成